

平成 30年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①学校として育成する資質・能力を明確化し、生徒のニーズを踏まえ、平成30年度より新たな教育課程で教育活動を行うとともに、生徒が自らの課題を発見し解決する力を育む授業実践を進め、課題発見・設定・解決する能力を育成する。</p> <p>②学校行事や生徒会活動を通じて、集団としての成長を促す取組の構築・充実を図るとともに、生徒のキャリア諸能力の形成および豊かな人間力の形成を図る。</p>	<p>①学校として育成する資質・能力を基盤に、生徒が自らの課題を発見し解決する力を育む授業実践を進める。</p> <p>②生徒が主体的に学校行事・生徒会活動に参画することを通じて、集団としての成長を図るとともに、生徒のキャリア諸能力の形成および豊かな人間力の形成を充実・精選を図る。</p>	<p>①定期テスト、ルーブリック、教材の共通化をより一層進めることにより、組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>①神奈川県と国立教育政策研究所の指定事業を軸として、授業改善のPDCAサイクルを組織的に運用し、その成果をホームページ等で公開する。</p> <p>②生徒主体の学校行事に計画的かつ効率よく取り組ませ、生徒に充実感と達成感を持たせる。</p>	<p>①全教科の定期テストを100%共通化できたか。</p> <p>①ルーブリックと教材を共通にした公開研究授業を全教科で実施できたか。</p> <p>①県と国立教育政策研究所の指定事業の研究の取組をPDCAサイクルの各段階でホームページに掲載できたか。</p> <p>②生徒会を中心とした生徒たちの学校行事への取組状況と満足度。</p>	<p>①一部の科目で部分的な共通化となった。</p> <p>①ルーブリックと教材を共通にした公開研究授業を全教科でのべ40回程度行った。</p> <p>①また3年間のまとめとして「ハンドブック」を作成したが、年間のまとめを掲載した。</p> <p>②生徒会が中心となり委員会や学校行事を成功させることができた。振り返り等で次年度への意欲を感じる。</p>	<p>①クラスごとの進度の確認のために、担当者間で情報交換を今まで以上に行う。</p> <p>①第Ⅱ期の取組について具体的な計画をたてる。</p> <p>①文部科学省の動向を踏まえつつ新たなテーマを持って研究をする。</p> <p>②生徒が各活動の振り返りで、それぞれの課題を発見し、それらを生かすことができるよう支援をしていきたい。</p>	<p>・4年間の目標の最後にある課題発見・設定・解決能力の育成に関して、教員の取組の成果のみ記載がある。生徒の能力形成についても評価すべきである。</p> <p>・生徒の能力は、個々の教員が授業において、ルーブリックを活かした総括を行うことで、その成果を読み取れるのではないかと。</p> <p>・課題発見、設定、解決能力の育成は、短期で成果が出るものがある。生徒の能力を教員がどう読み解くかが大切であり、評価において、どう判断するかは難しい。資質・能力をどう表すか考える必要がある。</p>	<p>①定期テストにおいて一部の科目で部分的な共通化にとどまったものの、全体的に共通化が進んだ。各担当者の授業進度が異なることはあっても、鶴見高校の授業としてのスタンダードを意識した授業展開が重要である。</p> <p>①全ての教科でルーブリックを活用した研究授業を実施するなど、実践を踏まえたリーフレットをまとめ、全県へ発信したことは大きな成果である。</p> <p>②学校行事を成功に導くようサポートし、生徒自身の振り返りや課題発見につなげることができた。来年度は生徒が主体的にそれらの課題に取り組むよう支援する。</p>	<p>①年間指導計画を基に科目の担当者間で本校の生徒に応じた学習内容の精選、アプローチを検討し実践する。1年間を見通した定期試験の範囲を想定し、授業を展開する。</p> <p>①第Ⅱ期の研究へ向けての準備を着実に進め、具体的な実践事例をまとめ他校での授業改善の参考に供する。</p> <p>②生徒が様々な場面で次の活動への意欲を持続できるよう魅力あるプランの提示、ヒントを示す等生徒の主体的な取組を支援する体制の充実を図る。</p>
2	生徒指導 ・支援	<p>①生徒指導・生徒支援を一体的に捉え、丁寧な生徒理解のもとに、より質の高い基本的な生活習慣の確立や学習環境の整備、マナーや規範意識の向上のために、教職員の共通理解を持った指導・支援体制を確立する。</p> <p>②生徒の自主的な活動の場としての部活動に対する支援の充実を図るとともに、個別生徒の課題解決に向けた支援体制の一層の充実を図る。</p>	<p>①キャリア諸能力及び人間力の形成につながる生活指導基本方針に基づく丁寧な生徒理解のもと、全教職員の共通理解を深め、具体的な対応を組織的に進める。</p> <p>②部活動の活性化に向けた支援を充実させるとともに、個別生徒の支援体制の充実をさらに進める。</p>	<p>①教育相談コーディネーターの配置と生徒支援チーム、支援のためのアンケート等や校内委員会の充実を図り、生徒の小さな変化についても速やかに情報共有し、支援が必要な生徒に対してきめ細かく対応する。</p> <p>②55分授業の実施や耐震老朽化対策工事の影響ができるだけ小さくなるように、校内外との連絡調整を図り、各部活動の各種コンテスト・大会への参加を促進する。</p>	<p>①教育相談コーディネーターを各学年に配置し、支援のためのアンケート等を活用して生徒の支援体制ができたか。</p> <p>②校内外との連絡調整の推進により、各部活動は平成29年度より多く、各種コンテスト・大会へ参加することができたか。</p>	<p>①支援チームを中心として行った教育相談やアンケート等の実施により、支援体制の充実を図ることができた。</p> <p>②耐震老朽化対策工事の影響で活動場所の制限があったが、外部施設等の活用により、大会・コンテストへの参加の減少を防ぐことができた。</p>	<p>①各学年に教育相談コーディネーターを配置し、学年ごとに支援体制が組織化することで、より速やかな対応を図る。</p> <p>②時間や場所の制限はあるが、部活動をより活性化させ、大会やコンテスト等で実績を残し、生徒の自信につなげていきたい。</p>	<p>・スライドは生徒の笑顔がとても印象的である。これは生徒指導の成果ではないかと。</p> <p>・生徒が自分自身に自信を持つと、学びや生活への意欲がわく。鶴見高校の卒業生は在校生にとって良いモデルになる。先輩を見て後輩は良い影響を受け、お互いの良いところを引き出し合い、生徒はソフト面で成長できる。</p>	<p>①校内委員会を中心として生徒支援チームを構築し、早期対応が速やかかつ適正に行えるようになった。</p> <p>①SSW、SCとの連携を図り、教育コーディネーターを配置し、学年ごとの教育相談体制をより充実する必要がある。</p> <p>②耐震老朽化対策工事や55分授業による場所や時間の制限があったが、各団体の活動の工夫により大会参加回数や大会成績に大きな影響はなかった。限られた範囲の活動の中でより良い成績を出すことが課題である。</p>	<p>①各学年ごとのアンケートの実施結果や相談等の情報が速やかに支援チームに伝わる体制を構築する。外部人材の活用、卒業後を見通した支援を確実に実施する。</p> <p>②外部の施設の利用や週末の使い方を工夫する。校内外の連絡調整を的確に行う。体力的・経済的負担に配慮し、週末の外部での活動は計画的に慎重に実施する。</p>
3	進路指導 ・支援	<p>①生徒のキャリア諸能力の形成および豊かな人間力の形成を図り、社会に貢献する</p>	<p>①卒業後の自分の姿や将来の自己の在り方やビジョンを持たせ</p>	<p>①高大接続改革の動向を注視し、多様な受験方法に対応できるように、学習が深まる</p>	<p>①学習履歴をポートフォリオに蓄積することができたか。</p>	<p>①入学当初より定期考査、模試や学校行事を中心にポートフォリオに学習の記録や振り返</p>	<p>①引き続き、学習活動や行事の記録と振り返りを行っていく。記入する内容の充実を図る。</p>	<p>・社会で仕事をするには、地頭が必要である。対人コミュニケーション能力や課題</p>	<p>①3年間の高校生活を踏まえ、定期考査、模擬試験、GTEC等の資格検定試験や学校行事を中心にポートフォ</p>	<p>①引き続き、高大接続改革の動向を注視し、多様な受験機会に対応できるよう該当学年やグループにおいて組織的に</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		人材を育成する。  ②個々の生徒が将来の生き方・働き方、将来の社会参画の在り方について考え、その具現化のための「個々の生徒の目標とする進路実現」を図る。	る取組の充実を図るとともに、「個々の生徒の目標とする進路実現」に取組む。  ②授業・定期テスト・学力テスト・模擬試験に対する意義や目標を明確に持たせ、主体的に学ぶ意欲の喚起に取組む。	PDCAサイクルを確立させ、ポートフォリオへの学習履歴の蓄積や課題研究の取組を充実させる。  ②「総合的な学習の時間」の年間指導計画の見直による、探究活動の充実を図り、その成果をAO入試や公募制推薦試験に活用する。  ②引き続き各種大会やコンクール、資格検定試験に積極的に取り組ませ、多様な進路実現につなげる。	②「総合的な学習の時間」に探究活動を取り入れることができたか。  ②平成29年度より多く、各種大会やコンクールに参加することができたか。  ②全校生徒に英語資格検定試験を受験させ、その成果を進路実現に活用することができたか。	りを入力し、改善を図った。  ②例年並みではあるが、上級学校、外部組織と連携して、多様な学習活動ができた。  ②文芸コンクールや税の作文で入賞をした。  ②全年に英語4技能GETCの受験を実施した。実施に向けて、日頃の授業や長期休業期間の課題などを通して主体的に学ぶ意欲を喚起し、自学自習時間の改善が見られた。生徒日々の進路実現に活用できる成果につながった。有効に活用することができた。また進路実現に向けた各学年の模擬試験を実施した。	②今年度の取組をふまえ、発展させながら次年度以降の「総合的な探求の時間」に取組む。  ②英検、GTECなどの各種検定試験やボランティアやコンクールなどに積極的に参加、挑戦するよう働きかける。  ②各種大会やコンクール、資格取得等についても組織的な支援により積極的な取組を喚起し、組織的に生徒個々の進路実現に繋げる。  ②生徒の目標とする進路実現をふまえて、英語4技能GETCや他の英語資格検定試験の計画的な受験や受験の継続性、活用できる成果の向上が今後の課題である。	発見・解決能力の育成に力を入れ、3年間で伸ばして欲しい。  ・文化祭や体育祭の評価において、生徒による課題発見や解決の成果を入れてもよいのではないかと。  ・GTECの取組を続ける事は手段であり、目的ではない。GTECを手段とすることで、生徒の自主学習時間は増加したなど、生徒の意欲向上に役立ててほしい。	リオに学習の記録や振り返りを入力した。生徒自身がPDCAサイクルを意識することで、学習活動等において主体的に取組む姿勢が見られた。今後は個々の生徒の目標とする進路実現に、高校生活での蓄積を繋げていくことが課題となる。  ②上級学校や外部機関と連携し多様な学習活動を行った。また、全学年で英語4技能GETCの受験を実施した。実施に向けて、日々の授業や長期休業期間の課題などを通じて主体的に学ぶ意欲を喚起し、自学自習の改善が見られ、生徒個々の進路実現に繋がった。今後は3年間を踏まえたより計画的な取組が課題である。	学習の深化を図る。PDCAサイクルを確立し、活動の意図を明確に伝え、様々な手法を活用して、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力の一層の育成に努める。  ②GTECの取組とともに、他の英語検定試験や各種大会・コンクール、資格取得等についても積極的な取組を喚起し、生徒個々の進路希望実現に繋げる。  ②生徒一人ひとりが自分の進路を具体的にイメージできるよう様々なモデルを提示し、生徒の希望実現に向けた進路研究を支援する。3年間を見通した到達目標を示すことで必要な学習習慣の確立を促す。
4	地域等との協働	①地域・同窓会・保護者との協働・連携を通じて多様な教育活動を展開するとともに、適切な情報発信を図り中学生・地域のニーズに応える開かれた信頼される学校づくりを進める。	①地域・同窓会・保護者との協働・連携の充実に取組む。  ①学校説明会、オープンスクール、学校ホームページなどのさらなる充実を図る。	①神奈川県らしいコミュニティ・スクールの実現に向けた準備に計画的に取り組むことでキャリア教育等に生かす。  ①平成31年度に学校評議員制度が学校運営協議会制度に変わること踏まえ、部活動や学校行事等において、地域に開かれた取組を充実させる。また、学校の取組をホームページや「まちcomi」等を活用して地域、保護者に発信していく。	①神奈川県らしいコミュニティ・スクールの実現に向けた準備を進め、年間計画を作成することができたか。  ①平成29年度より頻りに学校ホームページを更新し、可能な限りすべての保護者向け文書を「まちcomi」で発信することができたか。	①コミュニティ・スクールは、2つの部会を持つ組織を計画している。  ①学校ホームページの「学校概要」等を最新のものに更新した。中学生向けの説明会、オープンスクールについて、ホームページで情報発信した。  ①「まちcomi」への登録数の増加に努め、随時発信をした。	①「クラブ活動」等、更新していないところがあるので、更新していきたい。  ①「まちcomi」が全生徒、保護者に活用されるように取組む。	・コミュニティ・スクールを活用し地域と作るイベント等を開催してもらいたい。  ・地域の財を生徒に還元して頂きたい。OGOBや地域の人と触れ合い、将来の目標となるモデルを見つける仕組みを作ってもらいたい。  ・部活動の実績は吹奏楽部の地域の活動なども記載したほうが良い。	①「神奈川県立鶴見高等学校コミュニティ・スクール」の組織を学校評価部会・地域連携部会の2部会からなる学校運営協議会として策定した。  ①学校ホームページの「学校概要」等を最新のものに更新し、中学生向けの説明会、オープンスクールについて、ホームページで情報発信した。しかし、地域や同窓会との連携に課題が残った。	①コミュニティ・スクールとして学校の既存のグループや同窓会・PTA等の組織との関わりを考慮しながら、実効性の高い組織作りを目指す。  ①「クラブ活動」等、これまで更新が偏りがちな部分を定期的に更新するような仕組みを作るとともに、生徒の地域での活動なども掲載していく。  ①PTAからの情報も加え、「まちcomi」の発信を増やし、登録者数の増加に努める。全生徒・保護者に活用されるよう取組む。
5	学校管理 学校運営	①高校教育に求められる教育活動を生徒の状況に応じて推進し、教職員一人ひとりがチャレンジとコンプライアンスを旨とし、業務改善および事故・不祥事ゼロを実現するために、明るく風通しのよい職場環境を醸成し、地域・保護者・生徒に信頼される学校を目指す。	①県立高校改革基本計画および実施計画に基づき教育活動の改革推進を図るとともに、業務改善・不祥事防止に取組む。  ①耐震補強・老朽化対策工事による教育環境への影響を最小限にとどめる。	①業務を精選し、解決すべき課題の優先順位を決めて重点化してその解決に取り組む。  ①校内グループウェアの利用を促進し、朝の打合せや会議時間の短縮を図る。  ①グループウェアやホワイトボードを効果的に活用して、業務の見える化を進め、明るく風通しのよい職場環境を醸成し、事故不祥事防止を徹底する。	①解決すべき課題の優先順位を決めて重点化することができたか。  ①校内グループウェアの利用を促進し、朝の打合せや会議時間の短縮を図ることができたか。  ①ホワイトボードを効果的に活用して、業務の見える化を進めることができたか。	①会議の見直しなどの業務改善に努め、生徒と向き合う時間の確保につなげた。  ①校内グループウェアの利用により、朝の打合せ等の短縮が図れた。  ①各学年でもホワイトボードを活用し、業務の見える化を行った。	①さらなる業務の改善を目指し、働き方改革を実践していく必要がある。  ①校内グループウェアを学年の打合せ等にも活用できるように検討していく必要がある。  ①ホワイトボードのより効果的な使用方法を検討しながら、さらに業務の見える化に取り組む。	・不祥事防止のために生徒との素直なコミュニケーションを制限するのではなく、相手とのやり取りの中で判断して頂きたい。言葉を選ぶことに執着するのではなく、相手との関係性を築いておくことが重要である。  ・近年のネット社会では、生徒自身が存在を認められていると実感できることが大切である。  ・働き方改革は生徒と向き合う時間を増やすために大切である。	①会議の時間は短縮され、その分生徒対応の時間を増やすことができた。55分授業への移行により、放課後の生徒対応の時間が少ない分、さらなる業務改善を行う必要がある。  ①朝の打合せは短縮され、朝のSHRの時間の確保がされている。	①業務分担の見直しも含め改善に努める。55分授業に移行し2年目となる。検証を行い、必要な改善に取り組む。  ①生徒対応の時間を十分確保するとともに、教材研究、担当者間の協議など授業改善の取組に力を注げるよう、職員の働き方改革に引き続き取組む。